

学術集会会長挨拶

第 11 回九州ハンドセラピィ研究会学術集会開催にあたって

第 11 回九州ハンドセラピィ研究会学術集会
会長 佐伯 匡司

このたび、第 11 回九州ハンドセラピィ研究会学術集会を 2020 年 2 月 1 日（土）に熊本県熊本市の熊本市国際交流会館にて開催させていただくこととなりました。謹んでご挨拶申し上げます。

九州ハンドセラピィ研究会学術集会も 11 回を数え、熊本開催は初めてとなります。熊本地震や大雨などの災害が続き、県内にはいたるところで傷跡が残っています。他県や海外からの支援を受けながら、少しずつではありますが日々復興への道を歩んでおります。今回の第 11 回九州ハンドセラピィ研究会学術集会を盛り上げていただき、熊本の復興している姿も見いただけると幸いです。

本学術集会を開催するにあたりましては、第 41 回九州手外科研究会 会長の加藤悌二先生（医療法人 椎の葉会 かとう整形外科光の森）をはじめ、九州手外科研究会の諸先生方には格別なるご高配、ご支援を賜りましたことを御礼申し上げます。また、加藤悌二先生には第 41 回九州手外科研究会との同時開催をご推薦、ご支援いただき、大変光栄に存じております。本学術集会へ多くの手外科の先生方にご参加いただき、ご指導賜れたら幸いです。第 41 回九州手外科研究会のセラピストの参加についてもご高配を賜り、多くのセラピストが手外科に関する知識を深める貴重な機会になると確信しております。

今回、本学術集会の特別講演では『ハンドセラピストに必要な超音波画像診断の知識』と題しまして、手外科専門医の田口 学先生（医療法人結喜会 たぐち整形外科クリニック）にご講演いただきます。近年、整形外科外来診療の中で超音波画像診断装置の普及が急速に進んでおり、運動器リハビリテーションの臨床でも大きく革変するツールと言えます。しかし、セラピストがこれを学ぶ機会は極めて少ないのが現状です。セラピストが押さえておくべき超音波画像診断の知識を、外来診療での症例を交えながらわかりやすくご講演いただきます。

教育講演におきましては、『手指伸筋腱損傷（Zone I～VI）に対するハンドセラピィとスプリント療法』と題しまして、原田 康江先生（聖隷浜松病院）にご講演いただきます。解剖学的に複雑な構造をしている伸筋腱を含む手指伸展機構を、Zone 別の解剖学的な特徴を踏まえセラピィのポイントとスプリントについてご講演いただきます。

また、今回の学術集会では講演で学んだ知識を体験できるように超音波画像診断セミナーとスプリントセミナーを企画しました。日頃セラピストが触れることが少ない超音波画像診断装置を多くの参加者に体験いただきたいと思っております。スプリントセミナーでは、経験豊富な講師が参加者のリクエストに応えるデモンストレーションを中心に企画しております。

一般演題におきましては、多くの方からご応募をいただき誠にありがとうございました。セラピストおよびその関係者の方々には深く御礼申し上げます。12 演題を採択し 3 セッションを設けることとなりました。ご参加いただく皆様からの活発なご意見を期待しております。

最後になりますが、九州ハンドセラピィ研究会をご支援、ご協力いただきました皆様、第 11 回学術集会の運営準備に携わっていただきました皆様には深く感謝申し上げます。